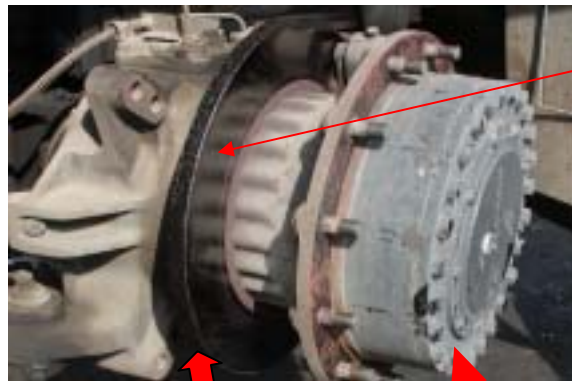


アメリカのイラク攻撃・北朝鮮問題・スペースシャトルの墜落・一向に良くならない景気など年が明けても暗いニュースが伝えられています。更にインフルエンザは猛威をふるい、「今年はどうなっているの!」と感じているのは、私だけでしょうか? さて、今回の話ですがこのところ排気ガス規制の話も多く取り上げてきました。今回は初心に戻る意味も込め、ラフタークレーンの走行減速機についてご紹介したいと思います。走行減速機の油洩れを見逃したり、オイル交換を怠ると事故や高額修理に繋がります。是非最後までお付き合いください。

## 走行減速機の話

最初に油洩れをおこしている写真から...。左の写真は走行減速機のハブシールから油洩れをおこしている



写真です。  
**ブレーキディスク**がギヤオイルで濡れているのが、お判りになると思います。右の写真は左の走行減速機に取付てあったタイヤです。洩れたギヤオイルが飛散しているのが、お判りになると思います。油洩れがこのような状況まで進行すると、当然ブレーキ力が低下いたします。



走行減速機の内部は右の写真のように、遊星ギヤ構造になっており、デフから伝達される動力を更に減速しています。各ギヤには高負荷がかかり、ギヤを潤滑する為に減速機内部にはギヤオイルが入っています。



オイルシール(ハブシール・シャフトシール)の経年変化による劣化から油洩れが発生します。通常オイルシール(ハブシール)の交換は2年毎の車検時に交換する事が最良ですが、車検費用が高くなったり、修理期間が長くなったりする為車検時は減速機のオイル交換のみに留めているのが現状です。その分**減速機回りの油洩れには十分の注意が必要です**。上の写真のような油洩れを確認したら、国際サービスに修理依頼してください。

下の写真は破損した、走行減速機の写真です。サンギヤ・プラネターリギヤリングギヤの歯が欠けギヤハウジング



は損傷し、走行不能に陥りました。原因は**ギヤオイルの劣化による潤滑不良**、もしくはオイルシール(ハブシール)からの油洩れによる**オイル不足**いずれかが原因です。破損状況が酷い為潤滑不良かオイル不足かは、断定できませんが新車時から一度も減速機オイルを交換していないと後から聞きました。この修理、部品費用だけで約50万かかりました。(メーカーにより部品費用は違います。)

通常走行減速機オイルの交換時期は、メーカーにより異なりますが、1年~2年となっています。**最低でも車検時には必ず交換する事**をお願いします。

## 国際サービスからのお知らせ

国際サービスでは都(県)運行禁止条例に適合するDPF装置の取付・販売を行っております。また、建設機械排気ガス1次規制及び97年低騒音規制各規制に適合するエンジン乗替え工事を行っております。(メーカー機種限定有り) 各種規制でお悩みでしたら、国際サービスにご一報ください。

**ご不明な点、分からない事等ありましたら是非ご相談ください。**